

～議員や警察と連携し、地域課題を解決～

セブンオークス市とコミュニティ自治組織の協働について

吉本所長補佐

セブンオークス市(ディストリクト・カウンシル)は、ロンドンから南東に電車で30分ほど、ケント県(カウンティ・カウンシル)に属する人口約11.5万人、面積約370km²の基礎自治体である。ロンドンを囲むグリーンベルト(開発規制のある緑地帯)が同市の9割以上を占め、そのためにロンドン通勤圏でありながら非常に緑の多い美しい地域である。

同市内にはコミュニティ自治組織が29ある。これらのうち3つは比較的大きく、常勤を含む職員3～8名が事務局に勤務しており、「タウンカウンシル」と呼ばれている。残りの26の組織は「パリッシュ」と呼ばれ、パートタイムの職員が1名程度という小さな自治組織である。しかし、いずれのコミュニティ自治組織も正式な選挙で選出された議員による議会と、プリセプトと呼ばれる財源調達の手段を持つ¹。そして、公共の緑地・公園等の管理、市民農園の運営、防犯灯や防犯カメラの整備、イベントの開催、就労支援等、地域のニーズに応じて様々な事業を行っている。地域内の建築許可申請に関して、セブンオークス市から協議を受ける権利も持っている。

セブンオークス市はこれらのコミュニティ自治組織と密接に協働し、地域課題の早期発見、解決に努めている。

1. セブンオークス市とコミュニティ自治組織との連携

セブンオークス市の職員数はパートタイムを含め約400人であるが、そのうちコミュニティ&プランニングサービス部局には30人弱の職員が配属され、健康、経済、治安などの分野を分担している。この



セブンオークス市の位置



セブンオークス市庁舎



セブンオークス市、コミュニティ&プランニングサービス部局

¹ パリッシュは、徴税自体は行わないが、カウンシル・タックスの徴税団体であるディストリクト・カウンシル(セブンオークス市)に、パリッシュのサービスに必要な歳出の見積もりと併せて課税徴収命令を発行する。市はこの分を上乗せした税を徴収し、パリッシュに配分する。「プリセプト」とは、本来はこの課税徴収命令書を意味する単語。

部局がコミュニティ自治組織からの相談・苦情対応等の窓口である。相談例としては、地域計画作成の方法、地域開発に関する法的な相談、イベント開催時に職員を派遣してほしいという依頼等がある。我々の訪問のついでには、地域にロマ人の集団が住みついてしまったがどう対応したらよいかという相談が多数寄せられたとのことであった。

こういった質問や相談はコミュニティ自治組織の議員からも寄せられるが、とくに自治組織の事務局で働く職員とセブンオークス市の職員は、常に意見・情報を交換できる関係にあることが目指されており、ネット上のプラットフォームや、メーリングリストが利用されている。

公の意見交換の機会としては、年に1度、全てのコミュニティ自治組織が参加する総会の場に、市職員の最高職である事務総長が出席する。各地域でも、コミュニティ自治組織ごとに年1回総会を開催しており、これにはセブンオークス市の職員が必ず参加する。また、コミュニティ自治組織の事務局職員が3か月に1回程度開催する合同会議にも市職員が同席している。

2. 市会議員との連携

市とコミュニティとの連携において、セブンオークスでは市議会議員がよく関与していることが印象的であったので、記しておきたい。セブンオークス市には、コミュニティ自治組織のエリアとほぼ一致する形で26の選挙区があり、57人の市議会議員がいる。

①ローカル・ミーティングの進行

市では住民から課題を聞き取り、解決を図る手法の1つとして、ローカル・ミーティングを開催している。窓が割られるなどの反社会的行動や犯罪率の高さが課題となっている10程度の地域で、集中的に会合を重ね、課題解決のための行動計画を地域自身の力で作るというものである。この会議には住民、市職員が参加するが、議長(議事進行)役は地元選挙区選出の議員が行う。行動計画が実行され、課題が解決に向かい、地域の話題が道路補修のことなどに変わり始めると、ローカル・ミーティングの目標は達成されたとして閉会し、別の地域に移る。



セブンオークス市の季刊広報誌で、Big Community Fund を利用してボクシングジムを開いたコミュニティの事例が紹介されている。8歳から26歳までの若者が、両親の収入に関わりなく、安く、健全にスポーツを楽しめるようになり、反社会的行動を減らすことにつながったという。

②補助金制度への関与

セブンオークス市ではかつて、全てのコミュニティ自治組織へ補助金を出していたが、数年前から「大きな地域基金(Big Community Fund)」とい

う選択的な補助制度へ移行した。年間総額 12 万ポンド(約 1,800 万円)、1 件当たり上限 3,000 ポンド(約 45 万円)まで、コミュニティ活動に必要な備品の購入や地域の共同施設の補修に対する補助制度である。そして、この基金への応募資格者は市議会議員のみであり、地域からの要望は市議会議員を通じてセブンオークス市へ提出され、市議会議員から成る選定委員会が採択する。事業を申請している議員は採択には関与できない。

3. 警察との連携

もう1点、印象的であったのが警察との連携についてであった。

①コミュニティ&プランニングサービス部局に警察官が駐在

英国では警察は国家警察庁の管轄にあるが、セブンオークス市を所管するのはケント県警察である。セブンオークス市では 1998 年に同警察と連携合意を結び、2009 年には同警察の交番がセブンオークス市庁舎の中に設置されることとなった。交番側・市側双方とも建物賃借料を以前より安くすることができ、警察側にとってはより市民に近い場所に設置出来たというメリットがあった。また、コミュニティ&プランニングサービス部局の



2009 年以降、セブンオークス市庁舎の建物にはケント警察という名前も併記されている。

治安担当部署にも常時1名の警察官が机を置いており、コミュニティ自治組織から治安に関する問い合わせを受けた職員が、すぐに警察官に相談できる体制が整えられている。

②スピードウォッチ事業

市と警察とのユニークな連携事業もある。コミュニティ自治組織から、地域内をスピード違反で走る車が多くて困るとの相談を受けていた市は、警察と協力し、住民ボランティアを対象に、車のスピード測定機の使い方研修会を実施した(このようなイベント周知の際に、前述のコミュニティ自治組織へのメーリングリストを活用している)。研修を修了した住民グループに対しては市が測定器を貸し出す。住民には罰金を科す権限はないが、違反車両の番号を警察に伝え、警察から違反車両の所有者に対して警告の手紙を出すという仕組みである。実際にスピード違反の車が減るという効果が出るとともに、住民側にも自発的に地域の課題解決に携わる協働意識が醸成された。

4. 協働は行政効率化のためにも必須

英国のすべての自治体と同様、国からの補助金削減の影響を受け、セブンオークス市の財政は非常に厳し

い状況にある。10年以上連続で前年比マイナス予算での行政運営を迫られてきた。セブンオークスでは長らく、事業の絞り込みと並行し、限られた予算で住民サービスを維持するための行政効率化にも取り組んできた。元々14あった部局を7つに減らし、職員数を減らすとともに、14の部長職を廃止した。市が、コミュニティ自治組織、議員、警察など多様な関係団体とより密接に連携して事業を進めているのも、行政効率化の延長線上にあるのである。今回はコミュニティ自治組織との連携に関する話を重点的に伺ったが、10年以上にわたる同市の行政効率化の取り組みについてもまた、非常に学ぶところが大きいように思われた。単に既存事業を縮小・廃止するだけでなく、新制度の設計や警察との連携など、質を落とさずにより効率的に住民サービスを提供しようと、工夫を重ねている姿勢に、特に感銘を受けた。

最後に、忙しい中今回の我々の受け入れを快諾して下さったセブンオークス市のリーダー議員であるフレミング氏、コミュニティ&プランニング部局コミュニティ開発責任者のボウルズ氏のお2人に、心より感謝したい。

(2013年4月17日訪問)



左から2番目がセブンオークス市リーダー議員のピーター・フレミング氏、右端がコミュニティ&プランニングサービス部局コミュニティ開発担当責任者のレスリー・ボウルズ氏。